

東名病院だより

Vol. 6

第20号

2006.1月発行

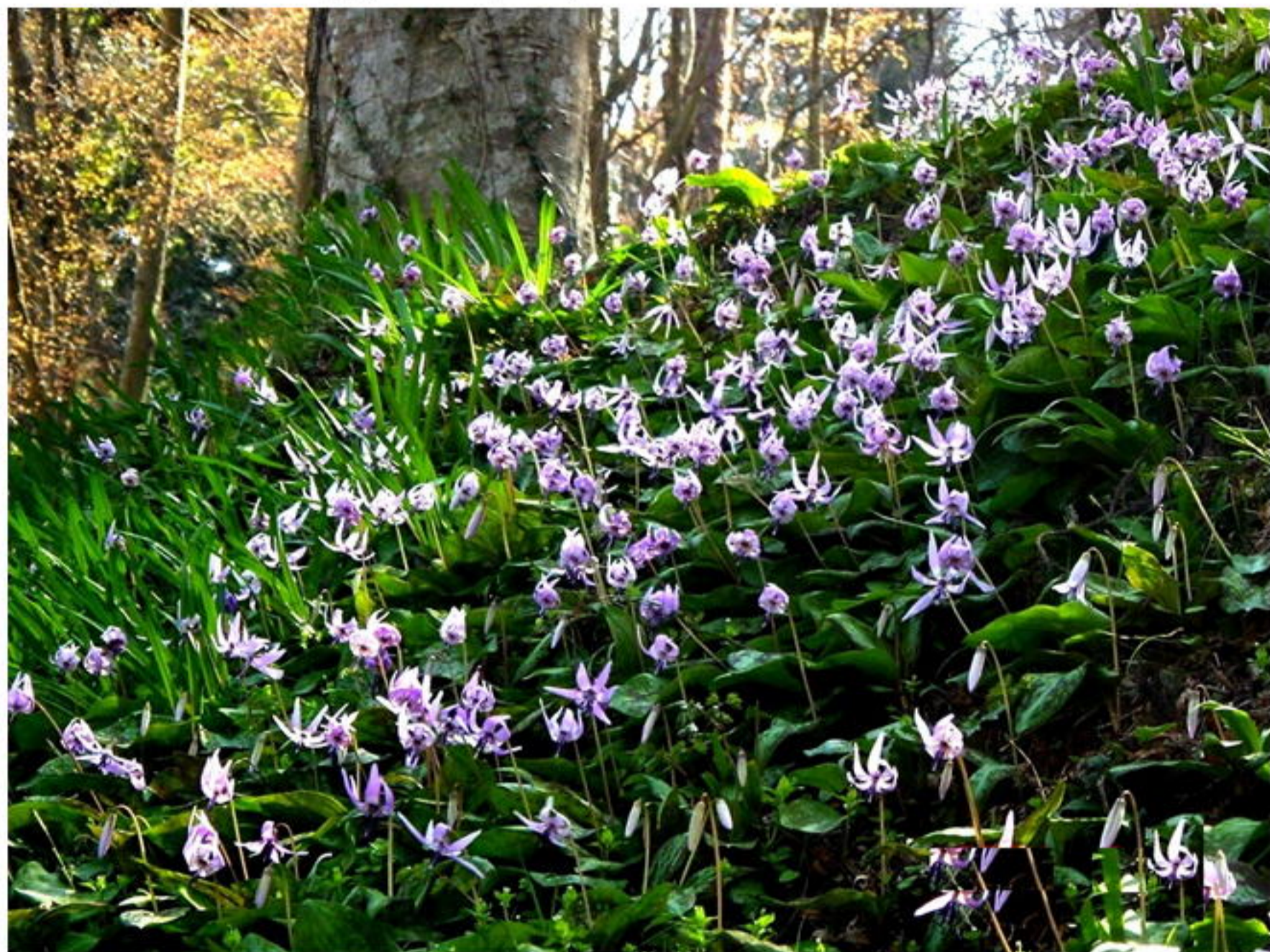
東名病院ホームページアドレス・Eメールアドレス

<http://www.med-junseikai.or.jp/tomei/index.html>

e-mail tomei-hosp@med-junseikai.or.jp

東名病院発行／〒480-1153愛知県愛知郡長久手町作田一丁目1110

T E L (0561)62-7511 (代) F A X (0561)62-2773



カタクリの花 足助町飯盛山

あけましておめでとうございます。

新年を迎えて、心あらたにしておられることと存じます。

私どもの病院もあらたな企画として、MRIによるドックを始めます。頭部で行われていたMRIの拡散強調画像を胸部・腹部にも応用して、ドックとして、症状のない時期でも早期に病気を診断しようとするものです。

又、脳梗塞早期治療の新しい治療法として、大変有効とされるrt-PAの使用が認可され、当院でも使用する体制がととのいました。発症後3時間以内に治療することが必要です。症状出現後一刻も早く来院して頂くことが重要です。

新しい年が、皆様によき年となります様お祈りしております。

院長 村瀬允也

インフルエンザについて

副院長 原川伊寿

インフルエンザは鼻、咽頭、気管支などを標的臓器とするインフルエンザウイルスによる感染症で、日本では11月から4月頃までの初冬から早春にかけて流行します。例年12月から患者さんが増え始め、2月初め頃に流行のピークを迎えることが多いようです。流行の規模は年によって異なりますが、2003-2004年は約923万人が感染したと推計され、中規模の流行であったと考えられています。

ーインフルエンザウイルスの感染様式ー

インフルエンザウイルスは患者さんのくしゃみ、咳などで吐き出される微粒子(飛沫)を介して感染します。感染様式には「飛沫感染」と「飛沫核感染」があり、感染の多くは飛沫感染によると考えられていますが、感染の拡大(流行)には飛沫核感染が大きく関わっていると考えられています。

飛沫感染 : 比較的大きい粒子は患者さんから約1mの距離であれば、直接に周囲の人の呼吸器に侵入してウイルスの感染が起こる

飛沫核感染 : ごく細かい粒子は長時間空気中に浮遊し、また、一旦床に落下した比較的大きい粒子でも、水分が蒸発し乾燥縮小した飛沫核になると再び空気中に舞い上がり、それが吸い込まれてウイルスの感染が起こる

ー新型インフルエンザウイルス出現の可能性ー

インフルエンザウイルスが毎年のように流行を引き起こすのは、ウイルスのHAとNAの抗原性が変化するために、インフルエンザ感染の既往があっても以前に流行したウイルス株に対する抗体を持っていても、抗原性が変化したウイルス株の感染を防ぐことができないためと考えられています。現在のところ新型インフルエンザウイルスは確認されていません。

ーインフルエンザの症状と合併症についてー

インフルエンザと普通のカゼとの大きな症状の違いは、38℃以上の急激な発熱と、咳・咽頭痛などの上気道炎症状、加えて全身倦怠感などが特徴的ですが、高熱を伴わない場合も経験上ありますので、かぜ症状を感じたら早めの受診をお勧めします。

また、気管支炎、肺炎などの呼吸器系合併症や、小児においては、熱性けいれんや脳炎、脳症などの中枢神経系合併症、他にも心血管系に合併症を引き起こすことがあります。特に、肺炎は高齢者において、合併頻度が高く、インフルエンザによる死亡の主たる原因となっています。



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真。
直径約1万分の1mm

ーインフルエンザの予防と治療ー

インフルエンザウイルスは毎年のように変異しながら流行を繰り返していること、また、現在のインフルエンザワクチンの感染予防効果は1年間持続しないことから、毎年予防接種を受けることが、最も予防効果があります。接種をしても発病することはありますが、症状が軽くすみます。

また、日頃から規則正しい生活と、十分な睡眠と栄養により、体力と免疫力をつけておく必要があります。外出から戻ったら、うがいと手洗いを励行し、流行時にはなるべく人ごみを避けるようにしましょう。

インフルエンザの治療は、症状、流行状況、インフルエンザウイルスの検出検査によって、インフルエンザか別の疾患かを鑑別し、インフルエンザであれば、抗インフルエンザウイルス剤（当院ではタミフル）と症状に応じた薬を投与します。



ウイルスの検査
(左側がA型陽性、右側が陰性)

ー鳥インフルエンザについてー

鳥インフルエンザは、ヒトのインフルエンザウイルスとは別のA型インフルエンザウイルス感染症です。鳥からヒトへの感染はめったに起こりませんが、病鳥との近距離での接触した場合、または病鳥の内臓や排泄物に接触するなどした場合に感染することが多いと考えられます。またトリインフルエンザウイルスのヒトからヒトへの感染は、現在非常に限定的とされています。しかし、トリインフルエンザウイルスの感染地域が拡大しており、ヒトへの感染の機会の増加がヒトからヒトへ容易に感染するH5N1亜型ウイルスの出現につながるため、大きな懸念となっています。

鳥インフルエンザのヒトへの感染例では、次のような症状が見られました。

- ・ヒトの一般的なインフルエンザと同様の症状（発熱、咳など）
- ・多臓器不全、結膜炎

治療と感染予防においては、ヒトA型インフルエンザの治療に用いられている抗インフルエンザウイルス薬に、効果があるといわれていますが、鳥インフルエンザの治療に使用した経験が限られているため、効果の程度はまだよくわかりません。

また、鳥インフルエンザに有効なヒトのワクチンの研究開発が、世界中で行われていますが現在のところ日本では使用できません。そのため感染予防には鳥インフルエンザの集団発生が起こっている時期に、病鳥と不要な接触を避けることが重要です。



インフルエンザ罹患後、どれくらい学校・職場を休めばよいか？

発症後3～7日間はウイルスを排出するといわれており排出される量は経過とともに減少しますが個人差があります。学校保険法では「解熱後2日経過するまで」を出席停止期間としていますが、医師が「感染のおそれがないと認めたときはこの限りではない」とされています。職場復帰の目安は、規則や取り決めはありませんが、いずれにせよ十分な体力の回復の後に復帰するのが妥当です。咳が続く場合はマスクの着用など周囲への配慮も忘れずに。

Q & A

インフルエンザ患者の病室管理や衣類の管理はどうしたらよいか？

インフルエンザは基本的に飛沫感染であり1～2mの距離しか飛びませんので、患者がマスクをしていれば、飛沫の発生は最小限に抑えられます。また手指を介した接触感染もありますので、手洗いは重要です。しかし、狭い気密な部屋では長時間ウイルスが浮遊することがありますので、時々換気をし湿度を保ちましょう。衣類に付着したウイルスからの感染はまれです。通常の洗濯と日なたに干しておけば、感染性は消失します。

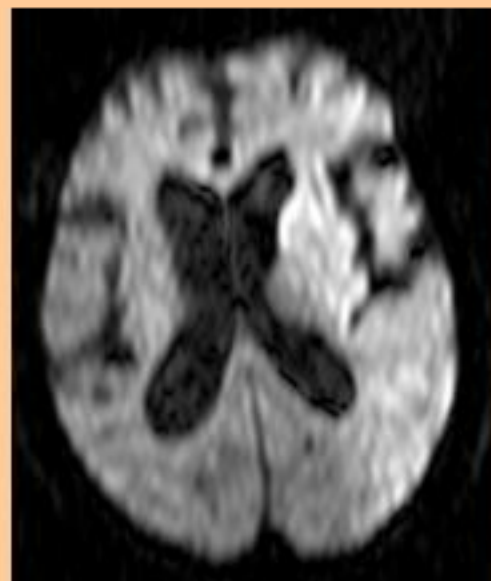
お知らせ

●脳梗塞急性期治療（3時間以内について）

本邦でも脳梗塞の早期治療にrt-PAの点滴による血栓溶解療法が施行できる様になりました。当院でもその施行の体制がととのいました。

MRIによる早期診断と適応を厳重にして、より有効な脳梗塞治療を行っていきます。

発症後3時間以内に治療を行う必要があります。症状出現後できるだけ早くに来院していただき、直ちにMRIを施行、診断して、点滴をはじめする必要があります。一刻も早く来院して頂くことが必要です。



頭部MRI（DWI）

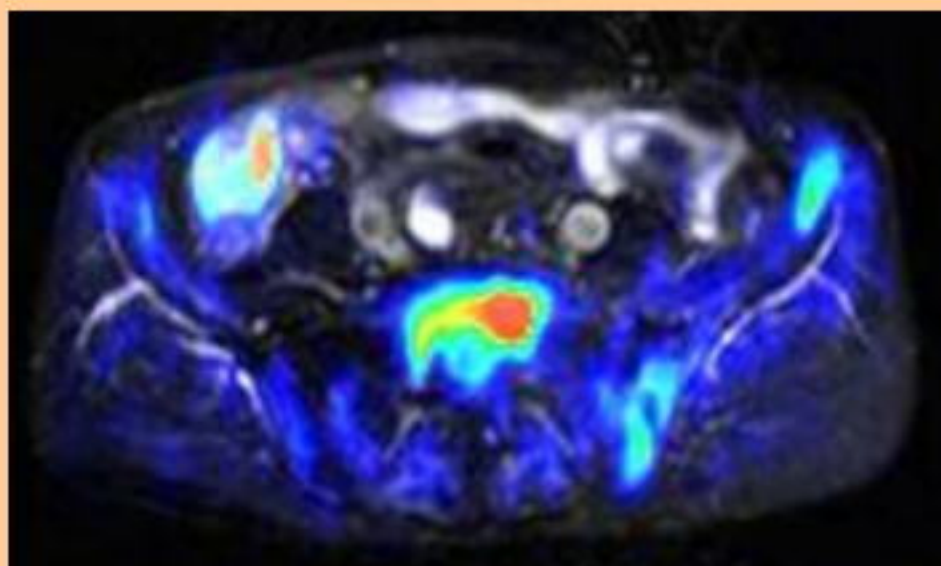
●MRI・DWIによるドックのすすめ

従来、頭部特に脳梗塞の急性期診断に非常に有用とされてきた、MRIのDWI（拡散強調画像）が、胸部・腹部にも応用され、病変の早期発見に有用であることがわかってきました。当院でも胸部・腹部にも応用して、症状のほとんどない時期に、肺癌、大腸癌などが発見されています。

MRI・DWIでは、ドックなどに使用されているPET検査（放射線同位元素による検査）に比べて、安価で、体に対する作用がなく、短時間で検査できる利点をもっています。

当院では、MRI・DWIをドックとして、全身に応用することが出来る様になりました。

脳のみでなく、胸・腹部のドックを受けられることをおすすめします。ご相談下さい。



盲腸癌 腹部MRI（DWI）